

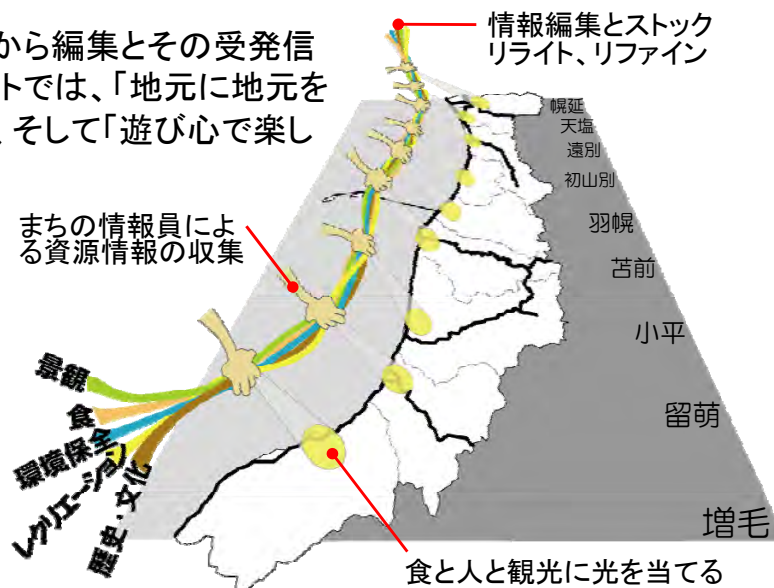
### ①活動概要

フリーペーパー「るもいFan通信(全45号)」の情報収集から編集とその受発信を開始して6年目を迎えたプロジェクトである。プロジェクトでは、「地元で地元をつたえること」、「アーカイブの仕組みと活用」を図ること、そして「遊び心で楽しくおもしろく」伝え続けることをポイントとした。

### ②活動の体制

ルート運営計画(H20年)に記載している右図のイメージを現実化し、萌える天北オロロンルート内の10名の実行委員会、登録100名の情報員、5名の専属編集局(FMもえる内)で運営している。

ルートに連なる5つのリボン(資源項目)をもとに、「食と人と観光」に光を当て、情報の編集とストック、そしてリライト&リファインによって資源に磨きをかけている。



### ③苦勞した点や工夫した点

地元で「自分たちの事業である」と認識してもらうことが最も大切である。

【苦勞した点】→遠回りではあるが「人と人」の繋がりによる草の根的な活動が必要と考え、候補ルート時代の「るもい食の時刻表」から数えて6年もの長きにわたり継続してきたこと。

【工夫した点】→身近な「人物像」を記事にすることで、ある種の「内輪ウケ」による緩やかなコミュニケーションを仕掛けたこと。その結果、賛同や喝采などのポジティブな反応が広く伝わった。

### ④活動の効果

テレビ、新聞、雑誌などの大手メディアが、情報を求めて来るようになり、留萌管内の情報ソースとして機能している。また、ルート内の過去の活動を紹介するウェブページから、BS朝日「新しい道をゆこう。(2011年11月9日放送)」の取材依頼が来るなど、大きな効果をあげている。

### ⑤今後の活動予定等

既に動き始めていることとして、「るもい管内ガイドブック電子ブック版」や「るもい体験Navi」など、これまでの蓄積をもとにした地域資源の活用を展開中である。さらに、「留萌管内手書きオロロンマップ」は、これまでの「人と人」の繋がりにより、他に類を見ない8市町村が共通するデザインを実現した。今後、それぞれの町の「バイウェイ(寄り道)」を促す仕掛けの形成をめざす。



情報受発信のはじまり「るもい食の時刻表」



るもいfan通信:テーマは食と人と観光



今後の展開ツールとなるオロロンマップ

様式2 (★指定・候補ルート共通)

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2011

ルート名	萌える天北オロロンルート
活動の名称	地域情報受発信プロジェクト
活動期間	18年度～23年度
評価の視点 ※相当すると思 われるものに○ (複数選択可)	①活動の持続性、②活動の地域への浸透・波及、 ③ルート運営の基盤強化、④ブランド形成・活用、 ⑤人材育成の充実 ⑥その他シーニックバイウエイ北海道の推進への寄与
1. アピールポイント	
<p><b>活動概要～ロングスパンの気長な活動～</b></p> <p>一貫したテーマは「人と食と観光」。候補ルート（平成18年）にスタートしたフリーペーパー「るもい食の時刻表（全15号）」が「るもいFan通信（全45号）」へとコンセプトを引き継ぎ<u>トータルで6年目を迎えた活動を継続</u>している。また同時にウェブ上でのリユースなど、ストックした情報を有効に活用することで、<u>地域内外の交流</u>の裾野を大きく広げている。</p> <p>■ポイント①：まずは地元へ伝える</p> <p>当初は自分たちの魅力に気づいておらず、その発信方法も稚拙であったが、しだいに情報が多様化し、住民主体による地域のイメージ戦略を誘発している。地元で当たり前と思っていたことを互いに共有し、発信することが<u>活動の地域への浸透・波及に繋がる</u>と考え、一般の情報員（登録約100人）や自治体の成熟度に合わせて情報収集方法を変化させた。</p> <p>■ポイント②：アーカイブの仕組みと活用</p> <p>情報を垂れ流しにするのではなく、歩みながら考えていく中で、<u>ストックした情報をリライト&amp;リファイン</u>することで資源の価値を高めていく体制を整え、<u>ブランド形成・活用の基礎を築いた</u>。それがウェブるもいFanの「旬の人（全41号）」と「動画館るもい座（全16号）」である。</p> <p>■ポイント③：遊び心で楽しくおもしろく</p> <p>さらに平成23年には、地域情報の「どこ？」をビジュアルで伝える「オロロン手書きマップ」を発行し好評を得ている。過去のストックを基礎としながら、情報収集作業により築いた地域とのゆるやかな関係性により、他に類を見ない全市町村が統一のイラストマップ（留萌観光連盟製作）を実現できた。</p>	



## 2. 創意工夫、苦勞した点

### ■ 苦勞した点

情報発信がいつも周回遅れとなっている中、安易にグルメ雑誌等に売り込むことは本位ではないという考えがあった。遠回りではあるが「人と人」の繋がりによる草の根的な活動が必要と考え、6年もの長きにわたり継続してきたことがようやく実を結び、様々な資源に光が当たるようになった。

### ■ 創意工夫

自分たちが作っているものが地域内外から賞賛されることで、クオリティも徐々に高まると考えた。また、地域に住んでいる者同士が同じ価値観を共有することを一番大切にしたいと考えた。

身近な「人物像」を記事にすることで、価値観を共有しやすく、賛同や喝采をなどのポジティブな反応を得やすい。ルート内の普通の人たちが互いに尊重し合い、ある種の「内輪ウケ」を絡ませ、緩やかなコミュニケーションを築いたことが、本プロジェクトの創意工夫であり、萌天ならではの仕組みである。



■フリーペーパー「るもいfan」とウェブサイト「旬の人」、動画館「るもい座」



■オロロン手書きマップ（製作：留萌観光連盟）